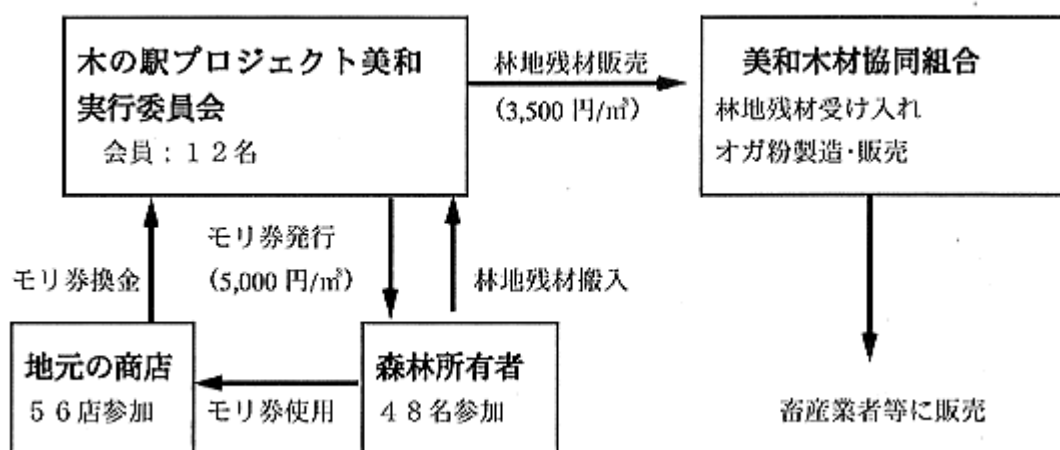


## 1. 「木の駅プロジェクト美和」の取り組みについて

常陸大宮市美和地区における、未利用間伐材等で山に放置されている木材(林地残材)の有効活用と、地域の活性化を図るための取り組み「木の駅プロジェクト美和」について紹介します。

当プロジェクトは、地元の有志が「木の駅プロジェクト美和执行委員会」(委員長:龍崎眞一氏)を立ち上げ、プロジェクトに参加登録した森林所有者から林地残材を引き取り、1㎡当たり5,000円相当の地域限定の商品券(モリ券,青モリ券)を発行するものです。集まった木材は、地元の美和木材協同組合が1㎡当たり3,500円で買い取り、主にオガ粉に加工し畜産農家等に販売します。引き取り価格と販売価格との差額は実行委員会が負担します。

なお、「モリ券」は加盟の商店で、「青モリ券」はガソリンスタンドで利用できます。当プロジェクトの流れは、次のとおりです。



当プロジェクトでは、当初の実証実験として材の収集を6月17日～7月31日までの期間限定で実施しました。実行委員会では、期間中に100㎡程度の材が集まれば良いだろうとの予想でしたが、いざ蓋を開けてみると、初日に約25㎡(軽トラックで33台)もの材が集まり、最終的には約280㎡(軽トラックで309台)の材が集まりました。

プロジェクトに参加した森林所有者からは「今までに利用価値が無く、山に放置していた材を高く買い取ってもらえるので助かっている」「山がきれいになった」等の声が聞かれました。一方、参加した商店からは「大型チェーン店に流れていた客が、地元で買い物をしてくれるのでありがたい」との声が聞かれました。

今後は、プロジェクトの内容を若干変えて秋頃から再度実施する予定とのことです。

当林業指導所でも、森林の整備と地域の活性化に大きく貢献する実行委員会の取り組みに、積極的に協力していきたいと考えています。

<大子林業指導所>



プロジェクトへの参加者



林地残材の搬入